

資料4－3

<F-REI主務大臣評価（案）における「今後の課題」について>

項目	主務大臣評価（案）における「今後の課題」のポイント
総合評定	○「創造的復興の中核拠点」となることを目指し、「基盤作りと存在感の提示」に重点を置きながら、研究開発・産業化・人材育成・司令塔の各機能を最大限発揮できるよう、各項目で指摘した課題等への対応を含め、F-REIの総力を挙げて取組が進められることを期待
(1) 政策体系における法人の位置付け及び役割等	同 上
(2) 新産業創出等研究開発の成果の最大化その他の研究開発等業務の質の向上に関する事項 ①研究開発に関する事項 i.研究開発 ア ロボット イ 農林水産業 ウ エネルギー エ 放射線科学・創薬医療 オ 放射線の産業利用 カ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信	<p>【共通課題】</p> <p>○研究計画の具体化や研究開発ユニット体制の拡充などの環境整備を行い、最新の研究動向も踏まえ、本格的な研究開発を進めていくことが必要 ※「オ 放射線の産業利用」を除く</p> <p>○クロスアポイントメント等によるユニットリーダーについては、F-REIとしての研究開発の進捗管理等を適切に行うことが必要 ※「オ 放射線の産業利用」を除く</p> <p>○委託研究については、受託機関が研究活動を行っているが、F-REI自身による研究であるという認識のもと、受託機関と密に連携を図りながら、相手方や関係者との丁寧な調整を含めた研究成果の着実な創出に向けたマネジメントを行うことが必要 ※「オ 放射線の産業利用」を除く</p> <p>○研究開発の具体的成果が表れるのはこれからであるが、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われるよう、具体的な検討が必要</p> <p>【分野ごとの課題】</p> <p>〔ア ロボット〕</p> <p>○委託研究については、緊密な連絡と共に定期的な意見交換の場を設けることで、適切な研究開発の執行管理が行われているものの、今後一層計画的な予算執行を図ることが必要</p> <p>○RTFについて、F-REIとしての位置付け、研究開発、産業化を含む社会実装の取組の具体化を進めることが必要</p>

〔イ 農林水産業〕

- 令和6年度予算の一部を次年度に繰越し、令和5年度予算の一部も令和7年度に事故繰越していることから、今後一層計画的な予算執行を図ることが必要
- 現地実証等を活用して、地域住民等に対しF-REIの取組への理解を更に醸成し、研究の成果が被災地域等に速やかに社会実装されるよう取り組んでいくことが必要
- 研究期間の変更等を行う場合には、事前にその必要性、理由等について説明を行い、受託機関が今後の研究について見通しを持って計画的に実施することができるよう、十分に配慮することが必要
- 農林水産業の技術革新のためには、ロボット分野など他分野との連携・融合による相乗効果が鍵となる。異なる分野が共存する研究機関であるとのF-REI特有の強みを活かし、既存の枠組みを超えた新たな発想が生まれることを期待

〔エ 放射線科学・創薬医療〕

- 加速器の整備に向け、有識者による検討チームが立ち上げられたが、引き続き、完成後の維持・運営に係る経費や人員の確保等も考慮の上、本分野の特性を踏まえ、研究開発の社会実装を見据え、ベンチャー企業を含む企業との連携による新産業創出等を念頭に、検討を加速し具体化を図ることが必要

〔オ 放射線の産業利用〕

- 放射線の産業利用分野において、F-REIとして取り組むべき研究課題の設定に向け、調査・検討を引き続き進め、方針を取りまとめるとともに、その結果に応じた具体的な研究課題の設定、適切な研究グループ体制の検討・整備を進めていくことが必要。その際、放射線の産業利用全体の考え方についても検討が求められる
- F-REIの取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、今後実施していく研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要

〔カ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信〕

- 当該分野は原子力災害からの復興と密接に関連した研究開発分野であり、自然科学のみならず社会科学の要素も含まれている特性も踏まえ、研究の成果が今後の復興に生かされていくことを期待する。そのためには、地元自治体や地元住民等の意見を積極的にヒアリングする中で浜通り地域等の課題を把握し、それを研究内容に適切にフィードバックすることが必要

ii.研究開発環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き具体的な研究計画の策定や国内外の研究者を含むさらなる研究開発ユニット体制の整備など本格的な研究開発を進める体制の構築を進めることが必要。その際、研究開発の進捗に応じ引き続き必要な活動の場所の確保を図ることが必要 ○研究開発ユニットの活動場所が多岐にわたるが、関係機関との連携の下、適切な管理体制を整備し、安全確保等に万全を期すことが必要 ○施設基本計画に基づく国が行う施設整備に係る研究・実験施設のフロアレイアウト等の検討に引き続き積極的に参加することが必要 ○F-REI自らが行う研究設備・機器や実証フィールド等の整備については、使用頻度や設置環境、汎用性など様々な要素を考慮しつつ、将来的な研究開発ユニット構想や研究体制、分野ごとの特性も踏まえながら、国が行う施設整備等のスケジュールと整合していくよう速やかに整理・検討し、具体化していくことが必要
iii.研究開発に係る情報収集等	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村座談会をはじめとした各種の施策について、これまでの成果・課題を踏まえて実施方法の更なる工夫・改善を行い、ニーズ・シーズの把握等がより効果的・効率的に進められていくことを期待 ○様々な機会を通じて把握された福島の復興・再生に貢献する研究開発のニーズ・シーズや国内外の技術開発の動向等を分かりやすく整理・分析し、F-REIの研究者や研究支援者等に共有するとともに、外部の研究機関や研究者等が必要な情報を入手できるよう、適切に周知等を行うことが必要 ○把握したニーズ・シーズの施策への反映等を継続的かつ的確に実施することができるよう、F-REI内の体制を整備するとともに、関係部署間における情報共有・コミュニケーションをきめ細かく行うことが必要

②産業化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村座談会について、これまでの成果・課題を踏まえて実施方法の工夫・改善を行い、より具体的なニーズ・シーズの把握や、浜通り地域等以外を含めた幅広い地域との連携がより効果的・効率的に進められていくことを期待 ○地元金融機関との包括連携協定に基づき、金融機関の有するネットワークを活用しつつ、F-REIの認知度向上、地元企業とのネットワーク構築等につながる、具体的な取組が引き続き実施されることを期待 ○引き続き、多様な実証フィールドの活用を含め、県内での具体的な活動をより一層推進することで、産業化を含む社会実装に結び付けていくことを期待 ○F-REIとしての、研究開発ユニットの構築も進みつつあり、企業等からの受託研究や共同研究の実施に向け、取組を進めることを期待 ○広報・情報の発信等については、これまで実施した取組の効果等を把握しながら、より効果的・効率的な手段を検討するとともに、体制の整備を進めることが必要。特に、幅広い企業等に関心を持ってもらえるよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、引き続き分かりやすく情報発信を行うことが必要 ○研究成果の産業化を目指した戦略的な知的財産マネジメントに向け、委託・直営といった研究形態等を踏まえるとともに、特に委託研究については研究成果に基づく知的財産について、取り扱いに係る具体的なルールを速やかに明確化とともに体制の整備を更に進めることが必要
③人材育成・確保に関する事項 i.人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○東北大学大学院医学系研究科に設置した「放射性環境生体医学連携講座」について、学生の受入れを進めるとともに、他分野への拡大も含めて連携大学院制度の更なる活用について検討するなど、先端的な研究開発の実施に不可欠な研究人材の育成が継続的に推進されることを期待 ○人材育成の組織的かつ継続的な実施に向け、教育機関等との基本合意書等について、既に締結した教育機関等と連携して更なる取組の具体化を図るとともに、新たな教育機関等との締結を図ることで、連携協力が一層推進・拡大されることを期待 ○引き続き、出前授業や、トップセミナー、科学実験教室などの計画的な実施を図るとともに、関係機関との連携のもと、多種多様な学びの場を設けることを通じて、地域の未来を担う若者世代を対象とした人材の育成に係るF-REIの寄与が対外的に明確になることを期待する。その際は、特にこれからの地域の復興の主たる担い手となっていくことが期待される20～30代を対象とした取組の充実を期待 ○企業の専門人材等を対象とした人材育成については、これまで実施してきた福島浜通り地域に立地する廃炉関連の分析施設での現地訪問型研修の充実や、地域のニーズに即した新たな専門教育・リカレント教育プログラムの展開について検討が必要

ii.人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ○国内外機関間の協定やF-REI国際アドバイザーの助言、他の国立研究開発法人の先行例の研究等を生かし、国内外の優秀な研究者の更なる確保が図られることを期待 ○委託研究のインハウス化、新規のユニットリーダーの確保に加え、専門人材、事務職員の確保を含め、必要とされる人材に応じた様々な手段を通じ、組織として必要な人材全体の確保が図られることを期待 ○引き続き、サイエンスコミュニケーターをはじめとするF-REIの研究開発等に関する情報発信を担う人材が着実に確保されるとともに、積極的なシンポジウム、セミナーの開催や国際学会等への参加、様々な研究機関との共同研究の実施等、様々な手段を通じて存在感を發揮することにより、多様な人材の確保が図られることを期待
(3) 研究開発等業務の運営の効率化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの取組を通じて、更なる産学連携体制の構築・ネットワーキング、広域連携が図られつつあるところ、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」として、福島県内機関との更なる連携促進とあわせて、東北のみならず全国、さらには海外の機関との連携を並行して進めていくことを期待 ○効率的・効果的なマネジメント体制については、PDCAサイクルに基づく効果的・効率的な業務管理の推進を引き続き徹底する必要がある。また、国際アドバイザーやアドバイザーの助言等が機構の社会的認知度の向上や機構の活動の各方面への展開等にどのような形で貢献しているか可視化を図るとともに、機構が抱える様々な具体的課題に対して、より具体的な形で助言を求めるなど、国際アドバイザーやアドバイザーのより積極的な活用を期待 ○セキュリティについては、国立研究開発法人協議会の分科会における情報収集を踏まえ、業務マニュアルの作成に向けて引き続き取り組むことを期待 ○経費の合理化・効率化については、国民に対する説明責任の観点から、実績を点検するとともに、本評価結果を踏まえて、引き続き適切な予算執行体制の構築や合理的かつ効率的な予算の執行に努めることを期待する。また、契約に関し、契約審査委員会や委託研究契約審査委員会の開催などを通じて、引き続き適正性の確保に努めるとともに、随意契約の公表の徹底等を通じ、透明性や公正性の確保を図り、適切な契約締結体制の構築を進めることを期待 ○人件費については、法に基づく国際的に卓越した人材確保の必要性といった機構の特徴に応じて必要な措置を講じていることにもかんがみ、諸規程や給与水準、人件費等の各種情報の公開を通じた国民に対する説明責任を徹底することを引き続き期待

(4) 財務内容の改善に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○産学官ネットワーク・セミナー、県内の商工会議所、商工会やその他経済団体等や海外機関での講演で構築された企業等とのネットワークを活用し、受託研究や共同研究等、具体的な連携体制の構築を期待 ○研究体制の構築、研究開発の進捗に応じ、競争的研究費等の外部資金の獲得に向けて、機構内での積極的・戦略的な取組を検討・実施していくことが必要
(5) その他研究開発等業務の運営に関する重要事項	<ul style="list-style-type: none"> ○「創造的復興の中核拠点」にふさわしい魅力的な研究環境の創出に向けて、各種施設の整備・運営に対応する体制の充実と、周辺整備との連携の推進を期待 ○人事に関し、段階的な組織整備に向けた採用活動が推進されることを期待 ○認知度向上や多様なパートナーシップの構築に向けた取組は、引き続き強力に推進する必要があり、その前提として機構における持続的な推進体制の確保が必要である。また、機構そのものの認知度向上にとどまらず、今後の研究開発の進展に応じて、研究開発内容等の分かりやすい発信を心がけるとともに、多様な主体による研究開発への参画や産業化を含む社会実装に向けた連携につながるような効果的・効率的な情報発信、F-REIのブランドイメージの向上に引き続き留意する必要 ○関連して、実証フィールドを提供する自治体等に対して、研究開発の状況について分かりやすい情報発信に努めるとともに、今後の研究開発のシーズやニーズとのマッチングにつながることを意識した取り組みとなることを期待 ○併せて、委託研究も含めて、F-REIの研究開発の進捗状況や今後の方向性等について、国内外の研究者に向けた発信・交流の機会を拡大するなど、広くF-REIに関する研究者間のネットワークづくりが推進されることを期待